

JISS

Winter 2004

【特集】JOC竹田会長インタビュー アテネから北京へ JOCとJISSの連携



冬に鍛える。

JISSでトレ

ニングに励むアスリートたち



第2回JISS国際スポーツ科学会議2004開催

平成16年12月、JISS研究体育館を会場に『第2回JISS国際スポーツ科学会議2004』を開催しました。会議は2日間にわたって行われ、両日とも200名を越す参加者を得て、盛会のうちに終了しました。会議のプログラムとして、初日は、筑波大学の

村木征人教授から「コーチングと科学的サポート」と題した基調講演をいただき、引き続き、JISSのサポートの紹介、ポスター発表が行われました。2日目は、基調講演として、ドイツ・ラ

イプチヒ応用トレーニング科学研究所のヘルムート・ザンドナー博士から「エリート・スポーツ・システム成功のための中心要素」を、ロシア・シンクロナイズドスイミング連盟のイゴール・カルタシヨフ博士から「ロシアにおけるシンクロナイズドスイミングへの支援」を御講演いただきました。また、午後からは、特別シンポジウムとして「北島選手を中心とした競泳サポート」を紹介し、最後に「トリノ、北京への科学的サポートに期待するもの」と題したパネルセッションを行いました。



会議の映像・資料をインターネットでご覧いただけます。 <http://www.jiss.naash.go.jp/jiss-conf-2004/>

2005年シーズン toto 発売中!

毎回10,000名様に!10回連続!
1,000円分プレゼント!!



totoで発表
した5試合が
当たれば

総計 100,000 名様に
当たる!

独立行政法人 日本スポーツ振興センター スポーツ振興事業部
<http://www.naash.go.jp/toto/>

totoラッキー5
キャンペーン実施中!

対象開催回:toto第152回~第161回
2005年2月26日(土)~5月3日(火・祝)

今年は 10000 が面白い!

totoの収益による助成が、日本のすべてのスポーツをアシストしています。



【特集】日本オリンピック委員会・竹田恆和会長に聞く

アテネから北京へ JOCとJISSの連携

アテネオリンピックでの
日本選手団の活躍と
JISSが果たした役割

2000年の国のスポーツ振興基本計画を受け、JOCはゴールドプランを策定しました。ここでアトランタオリンピックでのメダル獲得率1.7%の倍である3.5%という目標を立てたわけですが、アテネオリンピックでは3.9%のメダル獲得率を達成し、目標をクリアすることができました。

この成果はJISSの協力抜きに考えることはできません。2001年の開所以来、JISSは日本の国際競技力向上に非常に大きな役割を果たしてきたと思います。最新技術を駆使したスポーツ医・科学・情報面でのサポートは選手強化にとって大きな役割を果たしたと考えています。

特に医学面でのサポートは選手に安心感を与えました。このことにより選手はトレーニングにより打ち込めたのではないのでしょうか。アテネで多くのメダルを獲得したレスリング、体操競技、競泳、シンクロナイズドスイミングはJISSを中心選手強化を展開していました。こういった競技が長期的かつ集中的なトレーニングをJISSのスポーツ医・科学・情報の支援を受けながらできたことは今回の結果と大いに関係すると思います。

アテネの勢いを
トリノ、北京に繋げていく
― 一貫指導システム ―

アテネでメダル獲得率3.5%という目的を達成したわけですが、スポーツ環境や基盤の整備は十分ではありませんし、さらに上を目指して躍進して行かなくてはならないと考えています。特に、スポーツ振興基本計画の中で最も必要不可欠なものは一貫指導システムの構築です。各競技団体は2005年をめどに育成プログラムを

完成する予定です。これを推進することで恒常的な強化策を進めていくことが可能となります。JOCは競技団体と連携し、このシステムをより強固なものにすべく邁進していきたいと考えています。

ナショナルトレーニングセンターの
早期完成

アテネの好成績を受けた小泉首相の発言もあり、ナショナルトレーニングセンター（以下、ナショナルトレセン）の完成が早期に実現する運びになりました。屋外トレーニング場は2006年には完成すると聞いています。これは屋外の競技だけでなく室内の競技においても基礎的なトレーニングを実施する上で非常に有効になってきます。室内トレーニング場も2007年秋から暮れまでの間には完成予定で、北京に向けた最後の仕上げに間に合うこととなりました。次のゴールドプランにはこの施設の利用を含めて計画を組み込んでいく必要があります。新しい目標については今後検討して行きたいと考えています。アテネで達成したNOC別メダル獲得数トップ5以内を今後も維持していきたい、と考えています。このための施策を掘り下げていく必要があります。アメリカ、中国、ロシアのトップ3の一角を切り崩すことは難しいかもしれませんが、5位以内に位置することは本来の実力等から判断しても実現していける範囲だと考えております。

将来を見据えた
エリートスキルと
コーチアカデミーの創設

北京以降を見据え、ナショナルトレセンにエリートスキルを立ち上げる予定です。すでにJOCはJISSと連携して福岡県とのタレント発掘のモデルケース



を開始しています。有望な素質を持った子どもが様々なスポーツにふれながら可能性を探り、最終的に取り組む競技を決定していく。こういった取り組みがエリートスキルに繋がっていき、一貫指導システムに繋がっていくと考えています。こういった子どもたちが北京以降のオリンピックに活躍することが見込まれます。福岡のモデルケースが成功を収め、全国的にタレント発掘の動きが広がることが理想です。そうやって欲しいと願っています。少子化の中、子どもたちのスポーツ振興・育成・強化が行われることで地域の活性化が図られ、優秀な選手が輩出されることは我々も大いに期待するところです。同時に、ナショナルトレセンの中にはトップアスリートを育成する指導者を養成するコーチアカデミーの創設も視野に入れていきます。これらが今後の国際競技力向上に結びついていくと期待しています。

地域も巻き込んだ
ネットワーク型トレセンの構築

ナショナルトレセンは主に室内型競技をメインにしています。オリンピック競技には多くの屋外競技もありますが、費用の面で、なかなか新しい施設を作るといいうわけにはいきません。こういった競技は既存の施設を競技別強化拠点として指定し、JISSやナショナルトレセンとネットワークを構築しながら強化事業を展開していきたいと考えております。各地域のトレーニングセンター、スポーツ科学センターと連携し大きなネットワークを構築していくことで力も大きくなり、可能性も広がります。その中心的役割を担うのが、JISSであると期待しています。

JISSと
ナショナルトレセンを中心とした
競技力向上の中核

JISSの隣接地にナショナルトレセンが出来ることから、これまで以上に多くの競技団体がJISSのサポートを受けて国際競技力の向上をめざすことになるので、JISSの果たす役割はこれまで以上に大きくなると思います。我々、JOCの期待もそれに伴って大きくなります。JISSとの連携も、より密接になっていく必要があると思います。また、JISSを拠点にした各競技団体の連携と情報の共有化にも期待したいと考えています。JISSが情報のシンクタンクになり、各競技団体が連携しながら情報を有効活用することが望ましい姿です。JOCと各競技団体が、それぞれ一対一の繋がりでしかなかったこれまでの関係が、JISSが出来たことで競技団体間の連携が一層深まり、今まで見えなかったものが見えてくるようになりました。ナショナルトレセンが出来ることによって更に活発に展開されていくことを期待しています。

次期ゴールドプランと
JISSへの期待

今後のゴールドプランについては先程もお話したとおり、一つの目的をクリア出来たので、新たなターゲットを設けて国際競技力向上を進めていきたいと考えております。アテネの成功でここまでのプロセスが間違っていないことが確認出来ました。これまでの流れを繋げながら更に大きく広げていくことが重要であると考えています。

いずれにせよ、トリノ、北京、それ以降に向けてまだまだ努力し続けることが必要だと思っています。この努力の積み重ねが大きな成功につながっていくと思います。私もJOCにとって、JISSの皆さんへの期待は非常に大きくなっています。

これからも国際競技力向上の中核となり、選手の強化・育成にご協力いただきたいと考えています。



JOC 竹田恆和会長